

# 中国における 牛乳・乳製品の需給動向

～急拡大する消費と酪農の発展～

独立行政法人農畜産業振興機構

調査情報部 寺西 梨衣

# 目次

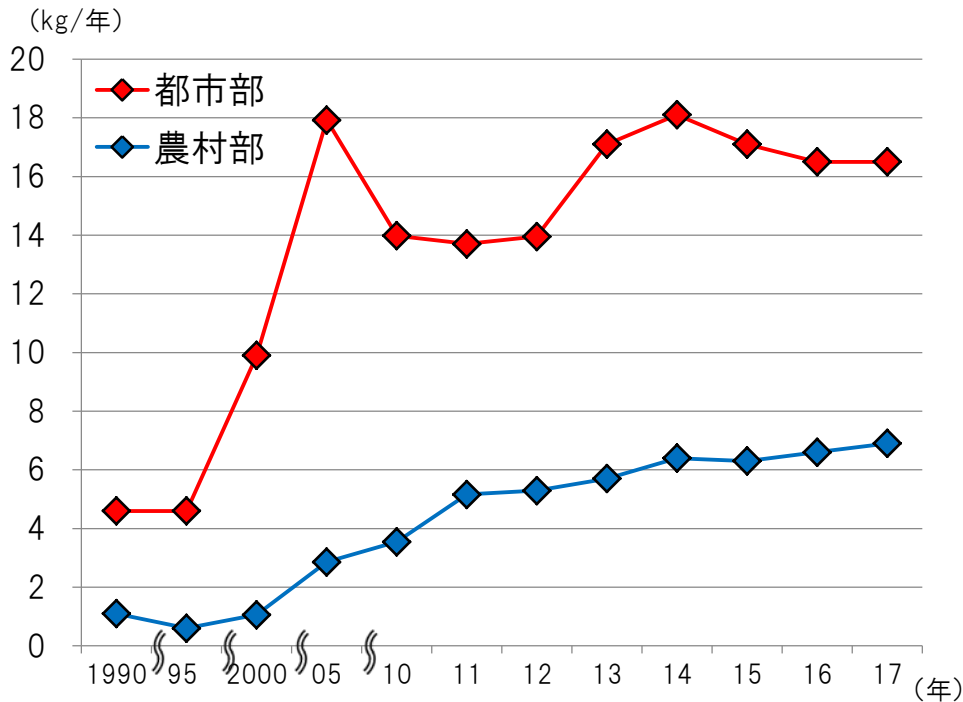
1. 乳製品消費動向と販売の様子
2. 生乳生産動向
3. 乳製品生産と輸入の動向
4. まとめ・今後の需給見通し

# 1. 乳製品消費動向

# 急速に増加する乳製品消費

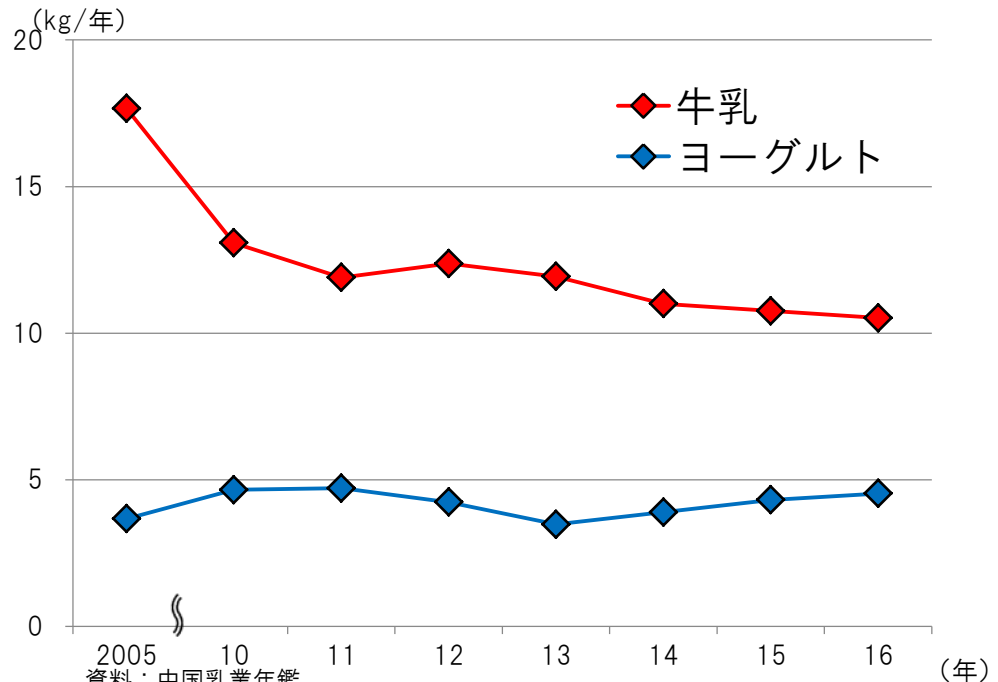
- ・都市部の消費量は、10年前まで急増したものの近年は横ばいで推移。
- ・農村部では、2000年以降増加傾向で推移。
- ・都市部における牛乳の消費は減少。一方、ヨーグルトの消費は増加。

1人当たりの牛乳・乳製品消費量の推移



資料：中国乳業年鑑

都市部における1人当たり消費量の推移



資料：中国乳業年鑑

注：統計が存在する遼寧省、河南省、広東省、海南省、陝西省、甘粛省の平均。

# 店頭販売の様子①

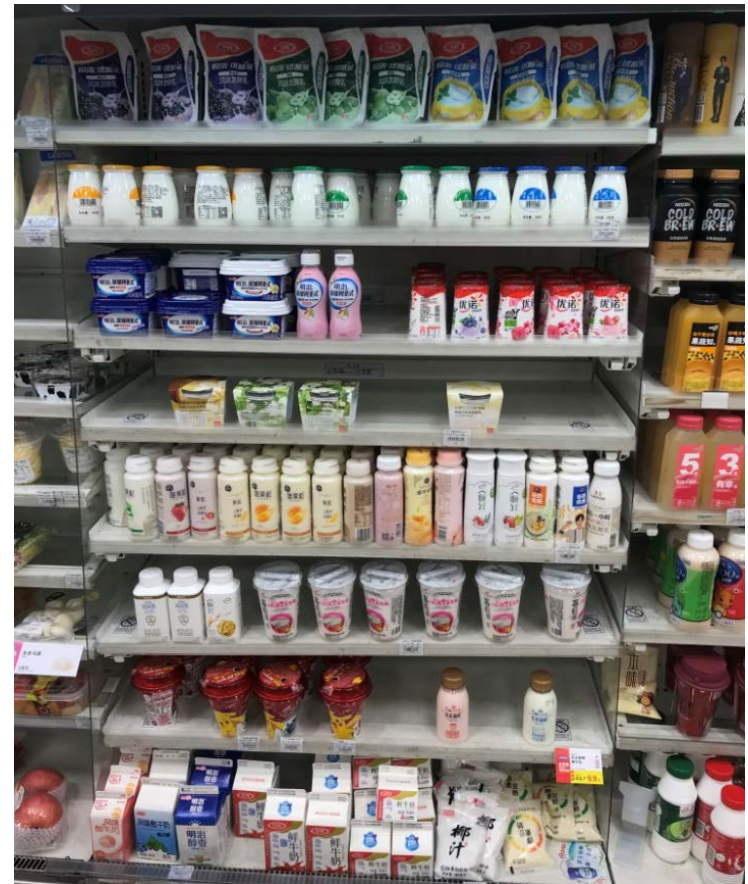
- ・常温でも販売できる製品が多く、店内の目立つ位置に牛乳やヨーグルトが陳列。





# 店頭販売の様子②

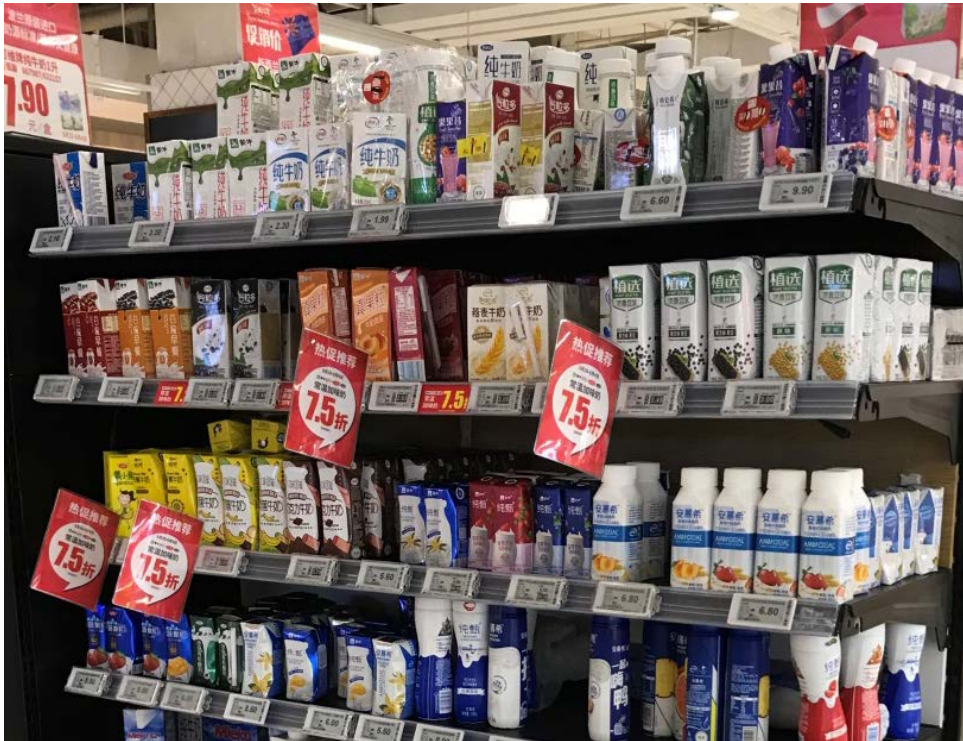
- ・高級スーパーマーケットやコンビニエンスストアでは、冷蔵品の販売が多い。





# 飲用乳（牛乳①）

- ・ロングライフ牛乳（LL牛乳）が一般的であり、スーパーの入口などに陳列されている。



# 飲用乳（牛乳②）

- ・近年は、紙パックの低温殺菌乳（L L牛乳ではない牛乳）が増加。





# 飲用乳（ヨーグルト①）

- 中国ではヨーグルトといえば「飲む」タイプを指す。
- 近年は「食べる」タイプも販売されてきているが、量は非常に少ない。



# 飲用乳（ヨーグルト②）

- ・袋タイプ、紙パックタイプが多い。
- ・消費が増加しており、商品数や売り場面積も増加。





# 粉ミルク（育児用調製粉乳）

- ・スーパーマーケットでは、国産品や輸入品など複数社の商品が販売されている。
- ・輸入品の人気が高く、売り場面積も輸入品の方が広い。



# チーズ①

- ・ピザ屋などの外食で消費されることが多い。





# チーズ②

- ・スーパーマーケットではスライスチーズや子供用チーズが販売されている。
- ・ほとんどが輸入品。



# バター①

- ・バターを多く使用するクロワッサンや菓子パンなどの消費が増加している。





# バター②

- ・スーパーマーケットでは輸入品のバターが販売されているが、売り場面積は狭く、取り扱われている商品数も少ない。

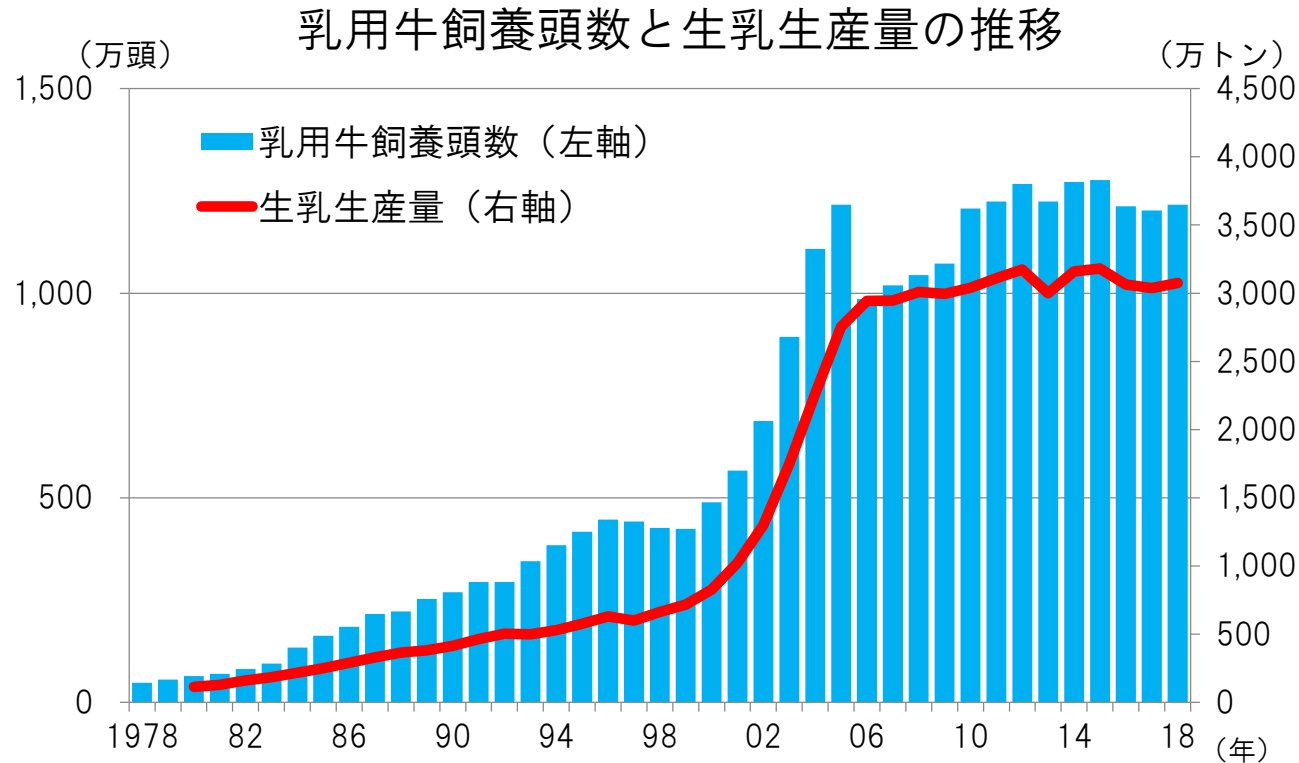


## 2. 生乳生産動向



# 生乳生産量は横ばい

- 生乳生産量は約3000万トンで、世界第6位。
- 2006年以降は横ばいで推移。



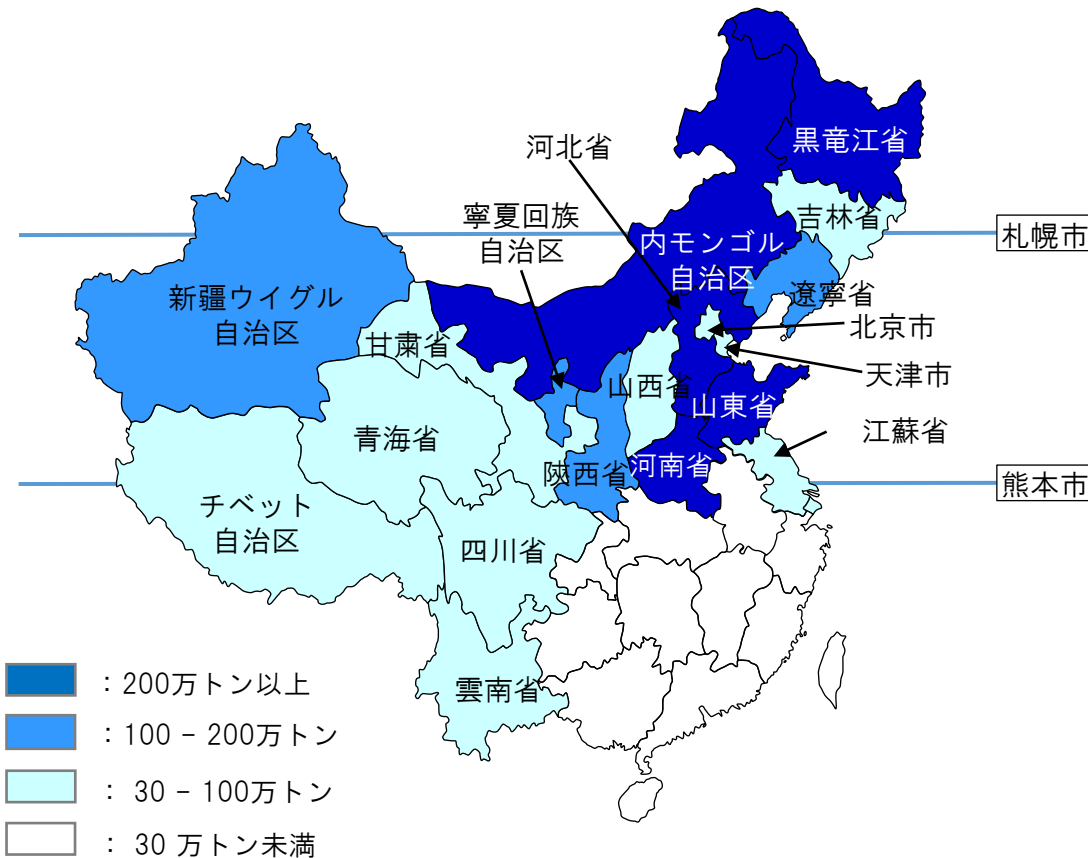
資料：中国乳業年鑑

注1：飼養頭数は2006年以降、国家統計局の発表を基にALICが推計。

注2：生乳生産量は2017年以降国家統計局。

# 主要生産地は冷涼な気候の東北部

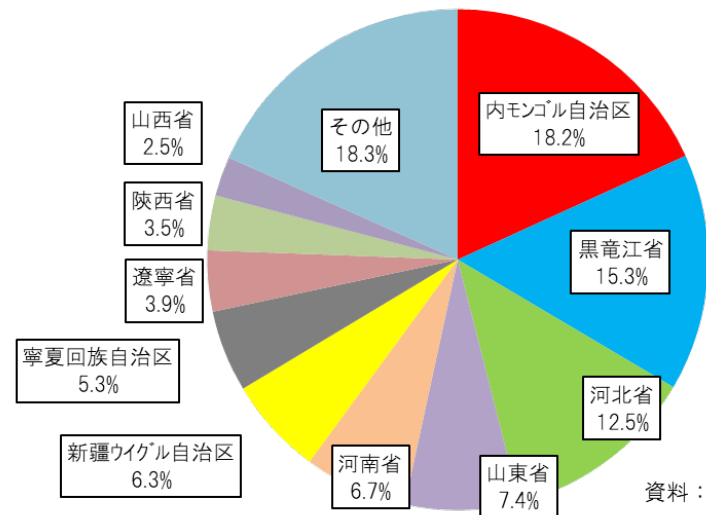
地域別生乳生産量（2017年）



資料：国家統計局の発表を基にALICが作成

- ・ 草地資源が豊富で冷涼な東北部で酪農が発展。
- ・ 生乳生産量上位10省で8割を生産。

全国生産量（2017年） 3074万5600トン



資料：中国乳業年鑑

# 遺伝資源の輸入

- ・ ニュージーランドや豪州から優良な乳用牛を輸入。
- ・ 近年は生体輸入が減少し、凍結精液や受精卵の輸入が増加。



繁殖用牛と遺伝資源の輸入額の推移

(万ドル)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年 1-8月
繁殖用牛	47,969	36,376	21,834	14,378	7,234	8,491
凍結精液	3,065	2,753	2,477	2,579	3,411	2,418
受精卵	420	564	590	466	421	184

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコードは、繁殖用牛は010221、凍結精液は051110、受精卵は05119920（動物受精卵）。

2：肉用牛も含む。

# 設備・技術の輸入①

- EUなどの酪農先進国から施設や機械とともに飼養技術も輸入。
- 快適な環境で適切な飼料給与を行うことで生産性を向上。





# 設備・技術の輸入②

- ・大規模農場では、大型の搾乳パーラーを導入。

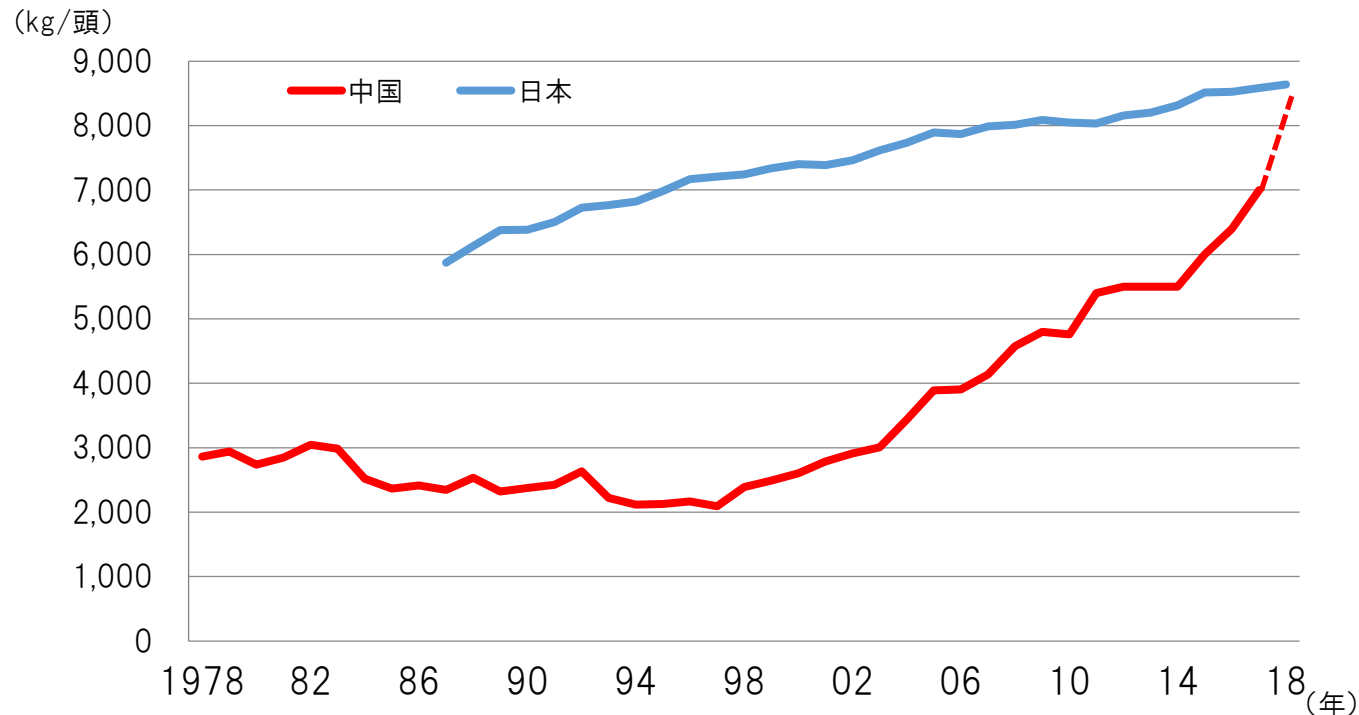


飛鶴乳業HPより

# 1 頭当たり生乳生産量の増加

- ・ 搾乳牛 1 頭あたりの生乳生産量は増加傾向で推移し、2017 年は 7000 kg。
- ・ 2018 年は 8500 kg であり、今後も伸びる余地はあると考えられている。

1 頭当たりの生乳生産量



資料：ホルスタイン・ファーマー社「中国乳業統計資料」（2018）、農林水産省  
 注：2018年はALIC聞き取り。

# 酪農の構造変化

- 2008年「メラミン混入事件」の発生による国産乳製品の消費不振
- 2015年環境保護法改正により「飼養禁止区域」の制定、排せつ物などの適切処理の義務など

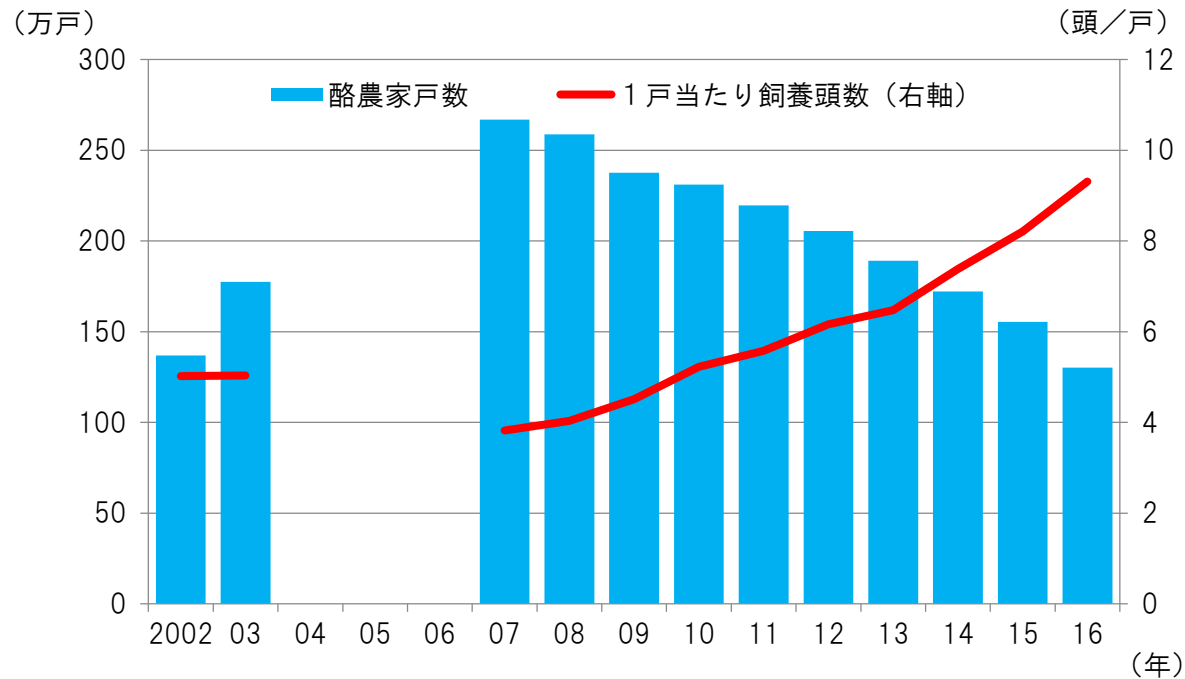


中小規模の酪農家が廃業  
大規模酪農家はさらに規模拡大

# 酪農家の大規模化①

- ・ 酪農家戸数は減少傾向で推移し、2016年は約130万戸
- ・ 1戸当たりの飼養頭数は増加傾向で推移し、同年は9.3頭

酪農家戸数と1戸当たり乳用牛飼養頭数の推移



(参考)

日本の1戸当たり経産牛頭数は、  
 全国 54.0頭  
 北海道 75.2頭  
 都府県 40.4頭  
 (2018年度)

資料：中国畜牧獣医年鑑、中国乳業年鑑  
 注：2004-06年の酪農家戸数のデータはない。



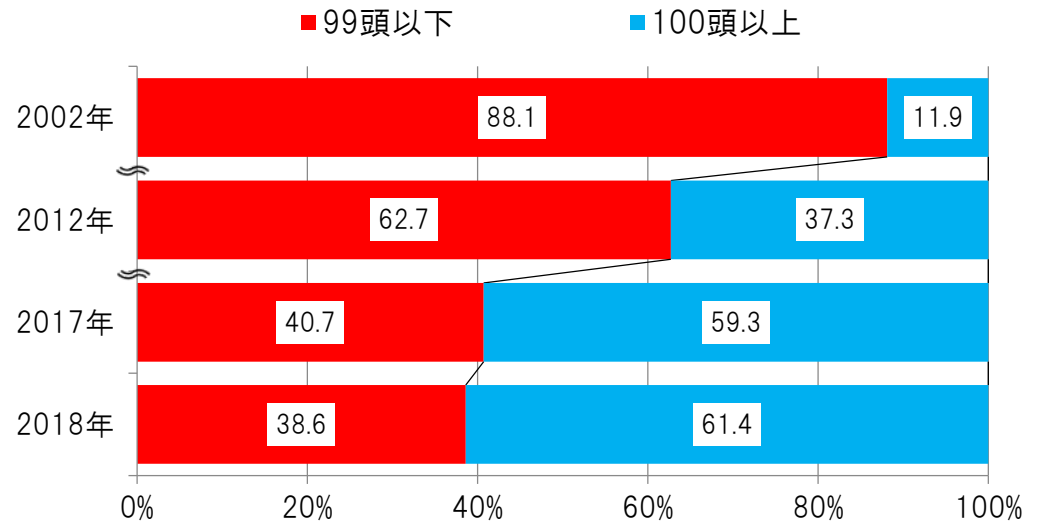
# 酪農家の大規模化②

- 100頭以上飼養している農家戸数は全体の1%未満。
- 100頭以上飼養している農家で飼養されている乳用牛頭数は、全体の61.4%。

飼養規模別酪農家戸数

	農家戸数 (戸)	シェア
1～4頭	1,024,237	78.7%
5～19頭	224,064	17.2%
20～99頭	41,908	3.2%
100～999頭	10,209	0.8%
1000頭以上	1,479	0.1%
計	1,301,897	

飼養規模別頭数の構成比の推移

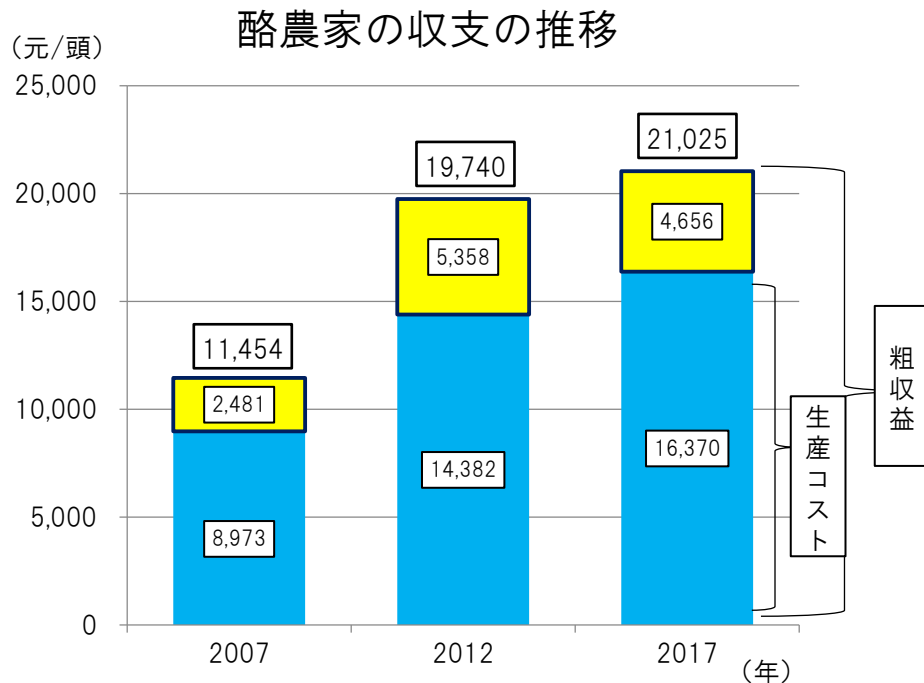


資料：中国乳業白書

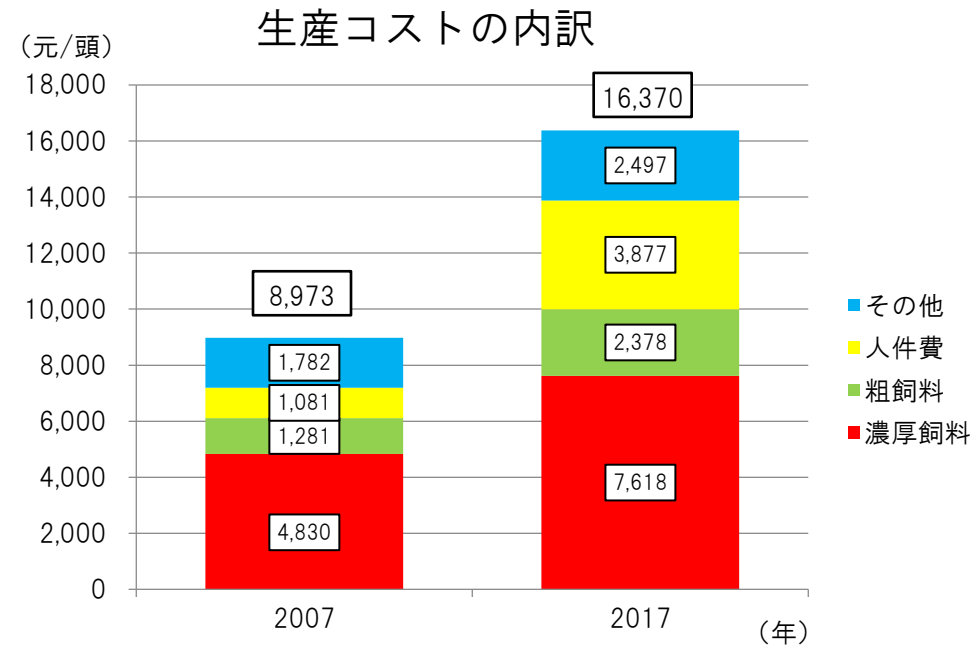
注：乳用牛飼養頭数は、2002年は688万頭、2012年は1267万頭、2017年は1202万頭、

# 酪農家の収支

- 酪農家の粗収益は増加するも生産コストも上昇したため、純利益は減少傾向。
- 生産コストの上昇は、濃厚飼料の給与の増加、濃厚飼料価格の上昇、人件費の上昇による。



資料：中国乳業年鑑

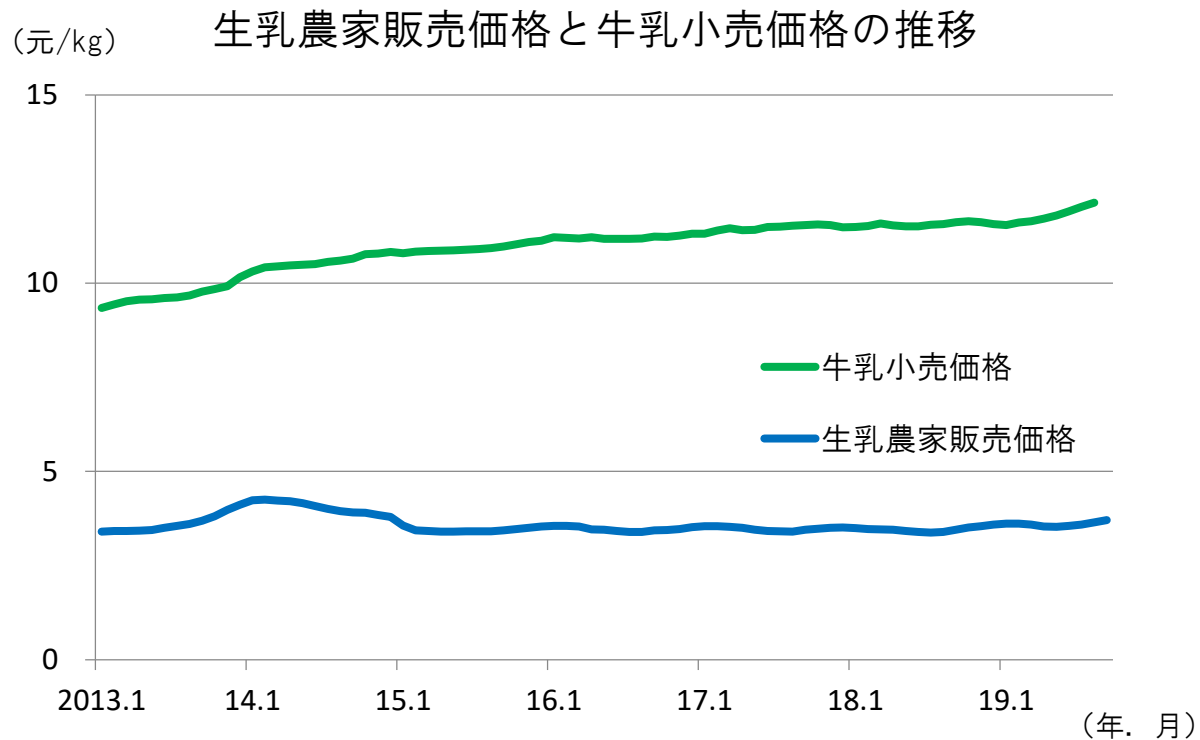


資料：中国乳業年鑑

注：人件費は、家族労働賃を含む。

# 生乳農家価格と牛乳小売価格

- ・ 生乳の農家販売価格は横ばいで推移。
- ・ 一方、牛乳の小売価格は、経済成長などによる物価や人件費の上昇を受け、上昇傾向で推移。



資料：生乳農家販売価格は農業農村部、小売価格は商務部

注：生乳販売価格は上位10省の平均。



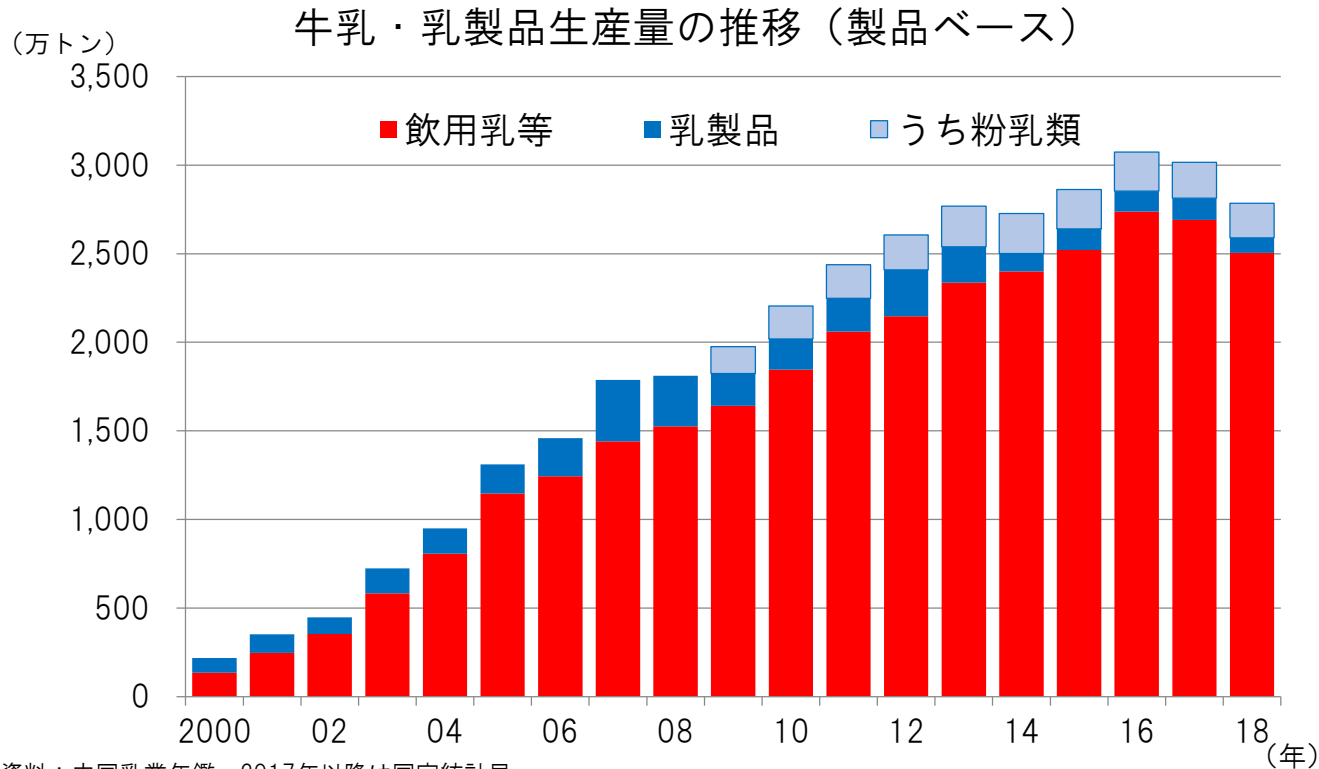
# 生乳生産のまとめ

- 生乳生産量は約3000万トンで、世界第6位。
- 酪農先進国から優良な乳用牛や飼養技術を輸入することで、急速に発展。
- 一方、国産乳製品への不信や環境規制により、中小規模の酪農家が廃業。
- 大規模化や機械化により生産性は向上し、生乳生産量はわずかに増加する見通し。
- 酪農家の粗収益は増加するも、人件費などの生産コストも上昇したため、純利益は減少。酪農経営は厳しい状況が続く。

### 3. 乳製品生産と輸入動向

# 乳製品生産は増加

- ・ 乳製品生産量は2700万トン。2016年をピークに減少。
- ・ 生産量の9割は飲用乳（牛乳・ヨーグルト）。



資料：中国乳業年鑑、2017年以降は国家統計局

注1：「飲用乳等」は牛乳およびヨーグルトであり、「乳製品」はバター、チーズ、粉乳類（全粉乳、育粉など）などが含まれる。

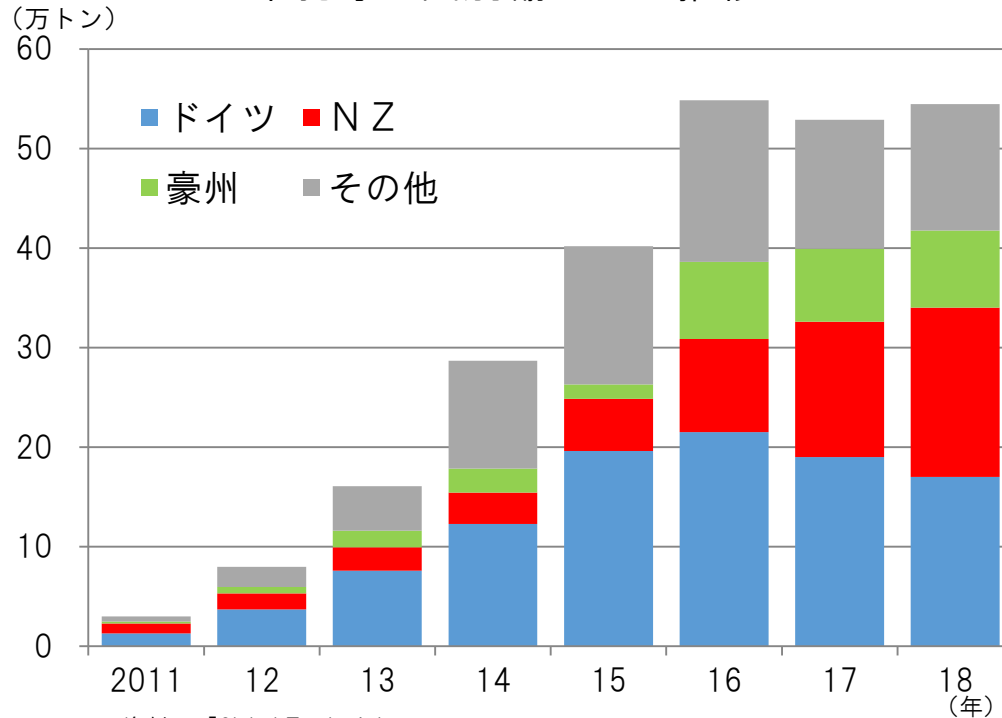
2：粉乳類の調査は2009年から開始。



# ①牛乳の輸入

- 牛乳やヨーグルトの生産は増加しているものの、輸入も増加。
- ドイツやニュージーランドからの輸入が多い。

牛乳等の国別輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」

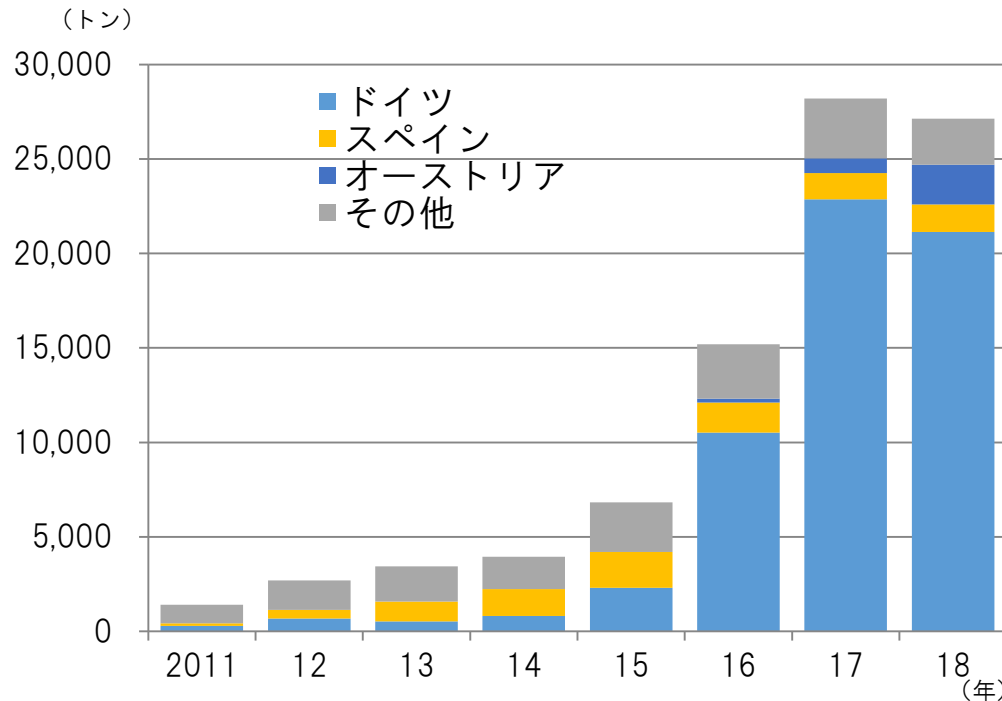
注：HSコードは、0401.10.20（製品重量ベース）。



## ② ヨーグルトの輸入

- ・ ヨーグルトの輸入も増加。
- ・ ドイツやオーストリアからの輸入が多い。

ヨーグルトの国別輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」

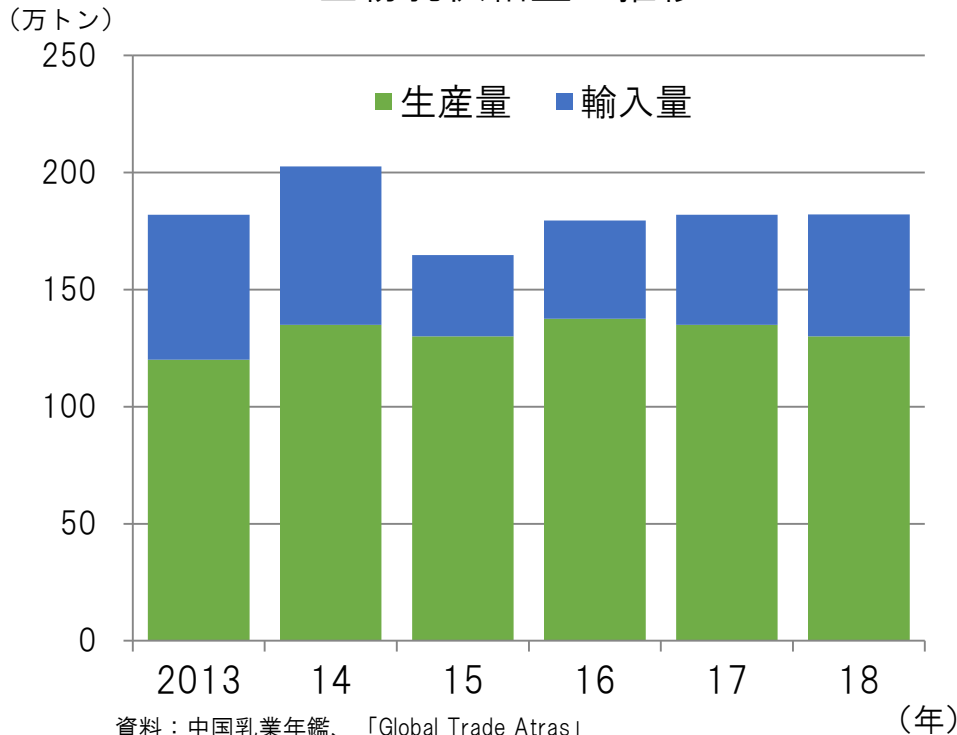
注：HSコードは、0403.10（製品重量ベース）。



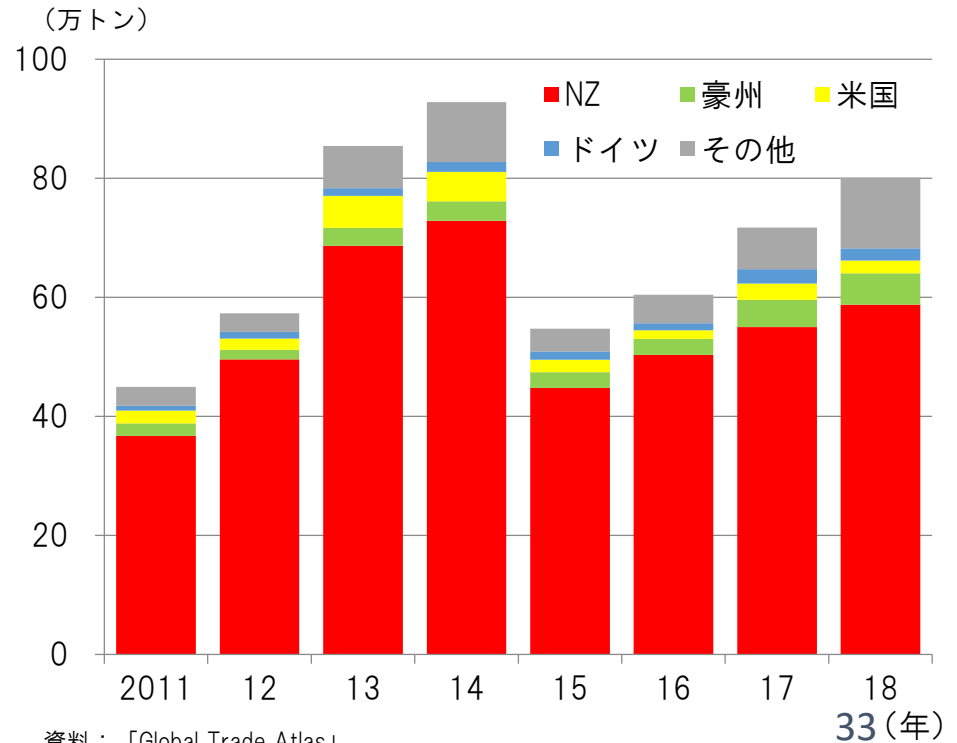
# ③ 粉乳類の供給

- ・粉乳の大半を占める全粉乳の供給量のうち、約3割を輸入に依存。
- ・ニュージーランドからの輸入が多く、輸入量も増加している。

全粉乳供給量の推移



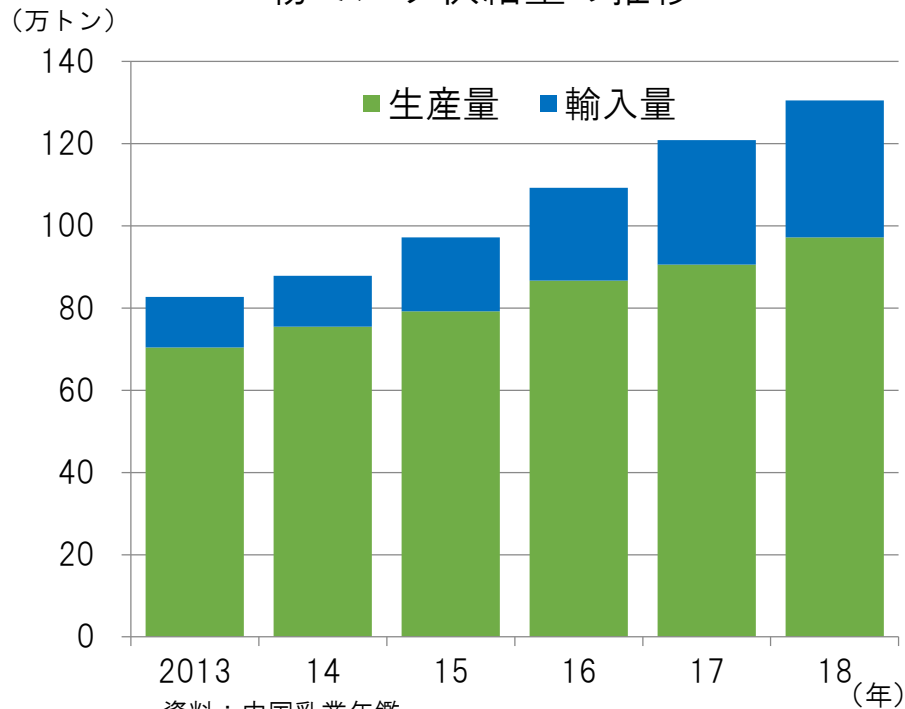
粉乳類の国別輸入量の推移



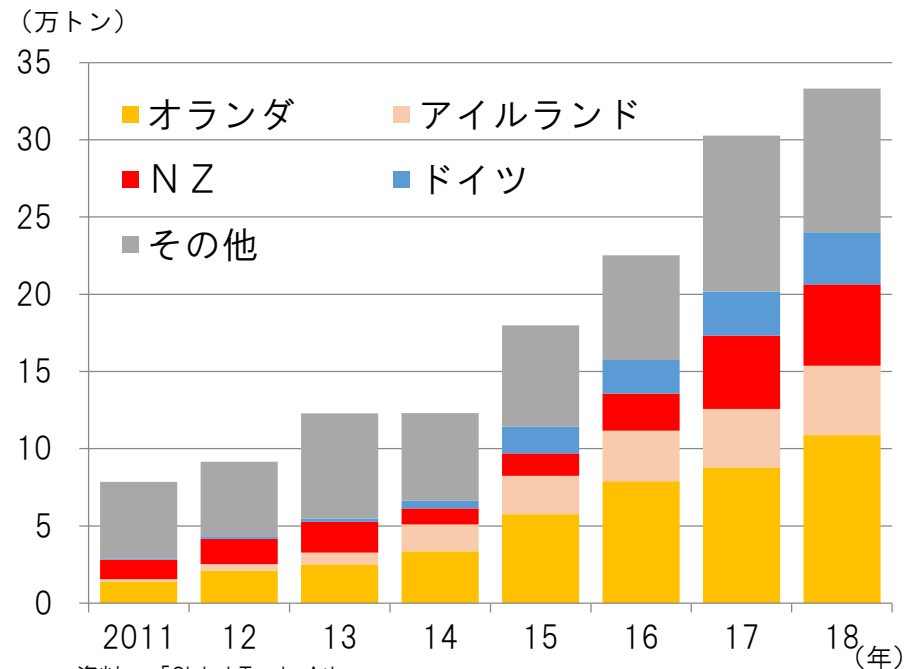
# ④粉ミルク（育児用調製粉乳）の供給

- ・粉ミルクの国内生産量は増加しているものの、輸入量も増加しており、2018年は供給量の4分の1を輸入に依存している。
- ・オランダ、アイルランドから輸入しており、近年はニュージーランドからも増加。

粉ミルク供給量の推移



粉ミルクの国別輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード=1901.10（育児用調製品、製品重量ベース）。

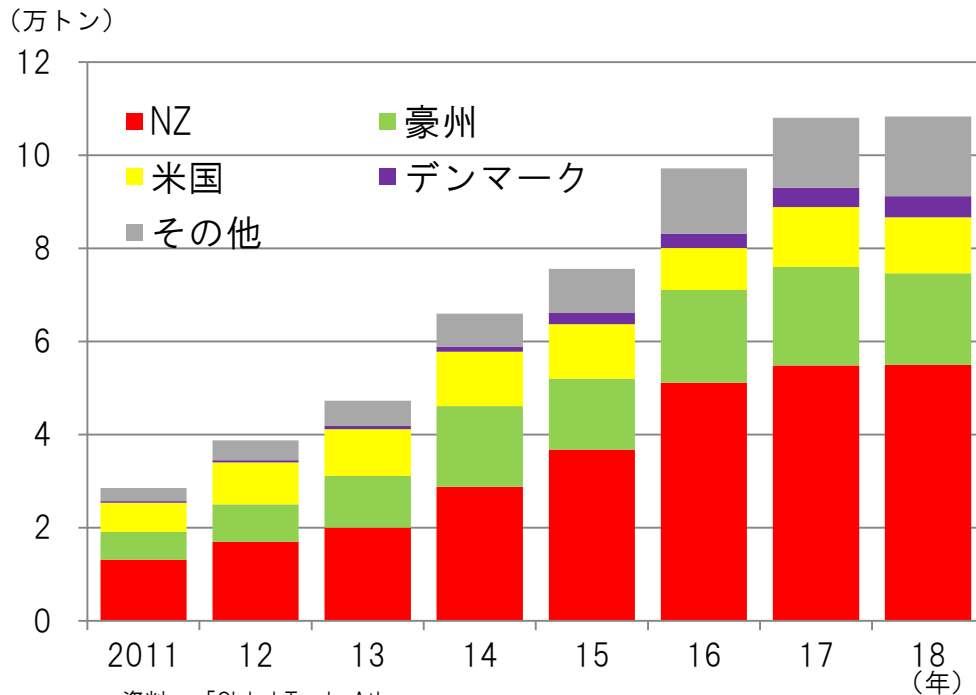
注2：育粉は、このうち9割以上を占める。



# ⑤ チーズの輸入

- ・国内で生産する技術や設備が乏しいため輸入に依存しており、輸入量も増加。
- ・チーズはニュージーランドや豪州から輸入している。

チーズの国別輸入量の推移



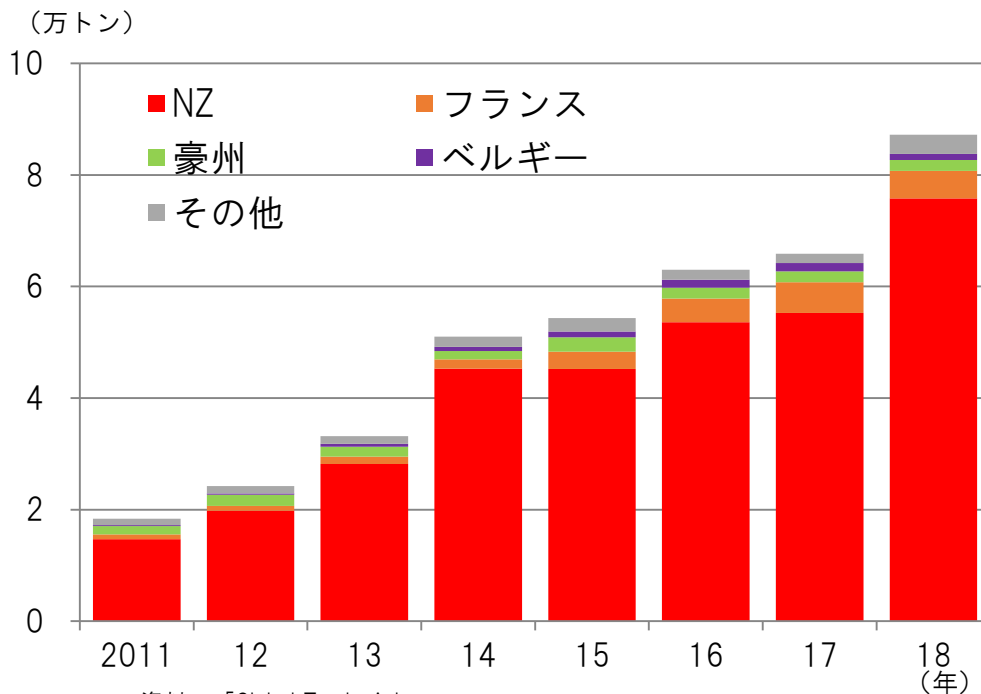
資料：「Global Trade Atlas」  
注：HSコード=0406.10（製品重量ベース）。



# ⑥バターの輸入

- 国内で生産する技術や設備が乏しいため輸入に依存しており、輸入量も増加。
- 主にニュージーランドから輸入している。

バターの国別輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」  
注：HSコード=0405.10（製品重量ベース）。



# ニュージーランドからの乳製品輸入

NZにおける主な乳製品の品目別輸出量の推移

単位：万トン

		2016年	2017年	2018年	2019年 1-8月	シェア
全粉乳		134.37	132.83	132.06	93.76	
	うち日本	0.04	0.04	0.04	0.04	0.0%
	うち中国	38.91	39.04	37.96	29.88	31.9%
脱脂粉乳		39.61	39.34	36.15	24.17	
	うち日本	0.57	1.50	0.95	0.41	1.7%
	うち中国	8.86	11.92	12.40	7.10	29.4%
チーズ		35.51	34.27	32.19	22.39	
	うち日本	6.13	6.36	6.46	4.68	20.9%
	うち中国	5.17	5.64	5.46	4.17	18.6%
バター		28.75	25.89	26.22	17.04	
	うち日本	0.68	0.44	1.07	0.86	5.1%
	うち中国	5.05	5.80	7.01	2.76	16.2%

資料：「Global Trade Atlas」

# 乳製品生産・輸入のまとめ

- 乳製品生産量は2700万トン。2016年をピークにやや減少。
- 生産量の9割は飲用乳（牛乳・ヨーグルト）。
- 乳製品生産は増加してきているものの、需要を満たすまでにはなく、輸入も増加。
- 自由貿易協定を締結しているニュージーランドからの輸入が多い。
- 乳業メーカーによる国内外への投資が進む。



## 5. まとめ・今後の見通し

### 消費：伸びる余地が大きい

- 1人当たりの消費量は増加したが、諸外国と比較すると少ない
- 都市部に比べ、農村部の消費は1 / 3
- 経済発展や流通網の整備から、農村部を中心に消費が拡大

### 生産：微増

- 環境規制による負担増などで、中小規模の酪農家が廃業
- 優良な牛や高度な飼養技術の導入、規模拡大により、生産効率が向上
- 過去10年にわたって生産が停滞していたが、今後は微増する見込み

### 輸入：増加するが、伸び率は大きくはない

- 輸入品の人気が高い粉ミルクや、国内生産が困難なチーズやバターを中心に輸入が増加
- 粉ミルクの輸入は、あと2～3年で落ち着く見込み

# ご清聴ありがとうございました

- 今回の情報は「畜産の情報」2019年9月号に掲載しています。

## ※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回、最新の情報を配信しています。

メールマガジンの配信を希望される方は、機構ホームページ (<https://www.alic.go.jp>) の右にある「メールマガジン」ボタンからご登録ください。



本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。

本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。